

知るここの大切さ

伊勢原市立伊勢原中学校一年七組

遷本 耀清

僕の祖父のかばんには、いつも同じカード  
 タイプのキーホルダーが付いている。スイス  
 の国旗に似ているハートのマークまで付いて  
 いる。赤色であまりにも自立なので一緒にい  
 る時、気恥かしく祖父には内緒で見えな  
 い様に隠した事もある。ずいとなだの飾りだ  
 と思っ、ていたが、ある時に同じ物を付けて

いる人を見かけた時、僕は驚いた。正直、小  
 学生だった僕が、よくあんな派手なキーホル  
 ダーを付けて来るな、と思っ、ていた。中学生に  
 なり、部活で電車に乗る事が増えた。そうする  
 と祖父と似、あ、の赤いキーホルダーを付けて  
 いる人が多くいる事に気付いた。不思議に思  
 い、その事を祖父に伝えた。そうすると祖父  
 はパンプレッツを見せながら説明してくれ  
 た。あの赤いキーホルダーには「ハルマ」  
 という名前が付いていた。霧足や人工関節を

使用している人、内部障害や難病の人、妊娠初期の人など援助や配慮を必要としている人が持つ、ていと教わった。

僕が小学3年生の時に祖父は心臓の手術をした。医師は小学生の僕にもあがる様に優しく説明をしてくれた。心臓弁膜症とそれによる合併症があった。その病気がどれだけ危険なものなのか、その手術がどのくらい大変なものなのかも丁寧に教えてくれた。その時は祖父が死んでしまおうのではなにかと不安になり

僕は泣いた。そんな僕に医師は「先生は手術を頑張る。おじいちゃんを生きた事を頑張る。だから君は退院した後のサボートを頑張る、ほしい。」と言っ、てくれた。手術から退院までほ、一個月くらいで思っ、ていたよりも早かった。様、に思っ、た。ただ退院してきた時の衝撃は今でも忘れられない。僕にとっ、ては熊の様に大きかった祖父が瘦せてかりか、りたなっ、ていた。いつ、も僕が泣きやえをかくまひや、千ボ、ルをさせてきた熱血な祖父が歩くのもや、と

な状態だった。その姿を見た僕は悲しく、しばらく祖父の目を見て話ができなかった。

僕と祖父はりハヅリだと言った。僕は一緒に散歩をした。医師に言われた様に僕はサポーンしたかった。あれから4年が経ち今でも行動は周りに比べたら遅いけれど、病気の事を時々々心えてしまったり元気になつてくれた。ヘルプマークの意味を知った時、内部障害とという言葉を知った。確か、祖父が自由に見え弱あつた時には周りの人もとても

優しかった。しかし元気になり自由に思わせる様になつた時、祖父と世間の動けるスピードの違いは大きく、祖父が迷惑かけまいと慌てる姿を何度も見た。もたつく祖父に言ういらした態度の人もいた。小学生だった僕は「おじいちゃんには病気がないから仕方がないじゃないか」と頭をきいていた。しかし今思うと世間の人には祖父が病気がたと知るはずもない。そこで僕はヘルプマークの持つ意味の大切さに、おつと気が付いた。それと同時に、家族

の僕が「え、あ、とヘルプマークの意味を知  
 らなかつた事がショックだった。も、とた  
 さんの人へヘルプマークを知ってほしい。駅  
 が商業施設にポスターを貼り、学校の道徳な  
 どでもや、してほしいと思つた。祖父の様な病  
 気だけがはなく、難病や妊娠初期、精神障害  
 の人も見た目では分からない。だからこそ、  
 付けているヘルプマーク。でもそのヘルプマ  
 ークの意味を皆人が知らなくは意味がな  
 い。

福祉はまず知る事が始まると僕は思う。  
 誰か、病気、障害、高齢者とか家族や身  
 近にいなけなば知る機会がなかない。で  
 もその意味と存在を知る事ができなば意識が  
 変あると思う。あの赤くて派手なキホルカ  
 ーの大切な意味を僕は周りの人に伝えていき  
 たい。